

2023 年度上半期報告書



信州大学山岳会

新人合宿

南アルプス 夏縦走

夏合宿

北アルプス サマテン

4月

9月

北アルプス 上級生雪訓

北アルプス 夏合宿

北アルプス 徳本峠

大雪山系 一年生縦走

5月

南アルプス 尾白川本谷

北アルプス GW山行

北アルプス ソロ縦走

6月

北アルプス 槍ヶ岳西陵

北アルプス 燕～常念岳

北アルプス 双六～三俣蓮華岳

7月

北アルプス 焼岳

南アルプス 白根三山

中央アルプス 全山縦走

北アルプス 雲の平周回コース

八ヶ岳 全山縦走

8月

北アルプス 夏縦走

新人合宿

日程

5月22日～28日

記録

5/22(月) 曇り

5:30 Box 発

7:00 さわんど BT

7:45 上高地

7:50 河童橋

8:30 明神館

9:30 徳沢ロッジ

10:25 横尾

今回の合宿は、現役12人とOBの塩谷さんの13人で入山した。曇っていて景色はあまり見えなかったが、降り出す前にはテントを張れた。1年生にとっては初めての歩荷だったが、特にどこかを痛める人は出なかった。



5/23(火) 雨

4:00 起床

5:15 発

6:15 本谷橋

8:30 潤沢ヒュッテ

8:50 雪訓開始

10:35 雪訓終了

11:25 潤沢ヒュッテ

12:25 本谷橋

13:20 横尾

この日は潤沢に向かう途中から小雨が降り始めた。雪訓は、全員で雪上歩行をやった。



5/24(水) 晴れ

4:00 起床

5:05 発

6:10 本谷橋

7:35 潤沢ヒュッテ

7:55 雪訓開始

12:10 雪訓終了

12:40 潤沢ヒュッテ

13:20 本谷橋

14:20 横尾

合宿始まってから初めて晴れた。雪訓は、グループに分かれて雪上歩行の続きと滑落停止訓練をした。滑落停止訓練は少しやってから高度を上げてやったが、速度が出すぎて止まらない場合に備えて斜面の下に止める人を配置した。また、雪上の石や木を排除してから行ったため、怪我をする者はいなかった。

5/25(木) 曇り

4:00 起床

5:05 発

8:10 蝶ヶ岳

8:50 蝶ヶ岳発

11:10 横尾

2日間でやった雪訓を実践で使ってみた。蝶ヶ岳の稜線に出る少し手前から雪が出てきた。硬い部分もあったが上級生がスポットに入って安全に通過した。



5/26(金) 晴れ

4:00 起床

5:10 発

6:05 本谷橋

7:30 涸沢ヒュッテ

8:00 雪訓開始

11:30 雪訓終了

11:55 涸沢ヒュッテ

12:50 本谷橋

13:50 横尾

雪訓最終日は、雪訓のまとめをやった。雪上歩行と滑落停止訓練、シリセード・グリセードの練習をした。

5/27(土) 晴れ

先発隊 後発隊

2:00 起床

3:00 発 3:05

3:30 一ノ俣 3:55

3:40 二ノ俣 4:15

4:00 槍沢ロッジ 4:40

4:10 赤沢岩小屋 5:00

8:15 肩の小屋 8:55

10:10 槍ヶ岳

12:05 肩の小屋

13:45 赤沢岩小屋

14:15 槍沢ロッジ

14:35 二ノ俣

14:50 一ノ俣

15:35 横尾

この日は槍ヶ岳にアタックした。OBの大島さん、河内さん、坂井さんにも協力してもらい、16人で登頂することができた。肩の小屋から山頂まで、1年生はフィックスを使って通過した。



5/28(日) 晴れ

5:30 起床

7:50 発

9:05 徳沢ロッジ 9:35 発

10:55 上高地

16人全員で上高地まで無事辿り着けた。



反省

会2 黒木

今年の新人合宿は去年とは違い、教育する側としての参加で様々な葛藤があり、難しい合宿となった。

まず行動では、上方注意やピッケルの持ち手、向きを注意する際にワンテンポの迷いが入ってしまった。会1の間違いはいち早く気づき指摘してあげなければいけないので、迷わずに指摘できるようにする。また、私は常に隊の1番後ろにいて、全員が見えているはずなのにペースについて先頭の人にアドバイスする機会が少なかった。槍アタック日には、雪渓に乗った後のペースがオーバー過ぎて、体調を崩す人もいたので、もっと注意深く見てあげたい。また、一本中の指示が足りなかったり遅かったりした。読図をするように指示を出すのかいつも遅く、10分で出発できなかった。これはすぐに改善できるので直していく。

次に生活では、エッセンの時に会1に対して口を出し過ぎてしまったと思う。まだ初めてだし、わからないだろうという考えが働いてしまって、会1に考える時間を十分

に与えることができなかった。これだといつまで経っても上級生がいなければできない会1になってしまうので、会1には考えてやるという癖をつけさせたい。また、天気図はほとんどの会1が書けていなかった。これは入山前の準備が足りなかったもので、私も係として事前に確認できることだったので、しっかり見てあげる必要があったと思う。パッキングに関しても、遅い会1に対しての指摘が遅かったので改善していきたい。

最後に雪訓では、合宿に入ってから去年とやり方を変えたこともあり、教え方について色々悩んでしまった。雪渓を歩くにあたって大切なことは歩行技術であるため、そこを重視して教えた。しかし今考えると、私たちが直下降とかクライムダウンとかの切り替えの指示を全て出してしまっていたように思う。これでは実践に繋がらないと思うので、これからの週末山行の中でしっかり教えていこうと思う。

今回の合宿は、リーダーとして会1をつれていく初めての山行だった。慣れないことの連続で悩んだり、不安になることは多々あった。しかし、OBの方々や同期に支えられ乗り越えることができた。これからはじまる2023年度。苦しいことの連続かもしれないが、山に行くことの楽しさを忘れずに頑張っていきたい。合宿のために協力いただいたOBの方々、本当に感謝しています。ありがとうございました。現役全員で槍ヶ岳に登頂できて、本当に良かったです。

会2 椎屋

今回上級生として初めて新人合宿を経験して数多の反省を得た。その中でも大きな

反省は二つある。まず一つ目として、指導するという立場にありながらも全体、特に会1の様子を見切れていなかったという事が挙げられる。具体的には先頭を歩く際のペース配分が適切ではなかったり、上方注意やピッケルの持ち方の不足不備を指摘しきれていなかったというものがあつた。新人にとって一番最初の山行で悪癖を残してしまうと後々に重大なミスや事故に繋がる可能性は格段に高くなる。安全な登山をしてもらうためにも、最初のうちにしっかりと基礎基本を伝える事を徹底したい。次に、自身で意思決定をする事が少なかったという点について。これは個人としても隊全体としてもそうであるのだが、まず個人の面を見ていくと、今山行において自身の意見や考えがあつても、最終的な決定をする際に他の上級生の意見を聞き、その意見をそのまま採用する事がほとんどだつた。これは特に行動中に顕著であり、ただでさえストレスのかかる上級生にさらにストレスを与え、迅速な判断が求められる現場においてタイムロスを生み出すという負の状況を作り出す事となつてしまった。確かに独断専行や、リーダーを蔑ろにした行動というのは隊がまとまりに欠ける要因の一つとなるが、ある程度は負荷を分散しなければ危険である事もまた事実である。隊に対して責任を持つ立場の一角として、もっと積極的に行動決定に関わっていきたい。隊全体としては、雪上訓練の内容や行動など、考えもなしに去年の様式を踏襲してしまつている節があつた。そのため指示や訓練が形骸化してしまう事態が発生し、会1にとってはやりづらいものとなつてしまったと思われる。引き継ぐ事や伝統はもちろん大事では

あるが、それ以上に自分達が行おうとしている事の意味を考え、意味のない事は切り捨てるという判断も大事である事を身をもって経験した。最後に以上の点を総括した反省として、自身の力不足により1年生に大きな負荷をかけてしまった事について述べたい。今年は雪上訓練の二日目と三日目は去年から形式を変え、上級生一人に対して会1が二名ないし三名で構成されたグループで個別に指導を行ったのだが、二日間どちらとも自身の隊は再集合時間を過ぎてしまった。これは一つ目の反省に繋がる事で、会1のペースを把握しきれていなかったが故に、集合場所までの距離と到着までの時間を見誤つてしまったのが原因である。慣れない訓練で疲弊している会1に余計な負荷を与える事はその後の行動に悪影響を及ぼしかねない。これは訓練だけでなく行動にも同じ事が言えるので、今後の山行にしっかりと活かしていきたい。また、二つ目の反省に繋がるものとして、会1に対する指示が不明瞭である事があつた。会1に、指示に従うだけでなくある程度考えて行動してほしいという考えが根底にあつたがためのこの結果であるのだが、今現在の段階としては、与えられた指示の意味を考える、理解するというのが主である。判断材料が少ない、もしくは何が判断材料が分からない、そういった状況で不明瞭な指示を与える事は、考えさせているのではなく、最終的な意思決定を不安な状態の会1に丸投げしている事に他ならない。会1にこのような余計な精神的負荷をかけないためにも、自身の意見、指示にもっと自信を持ち、はっきりとした態度で会1と向き合いたいと思う。以上が今回の新人合宿の反省である。この反

省を活かし、同期や会1の負荷を軽減し、より快適に、より安全に山を楽しめるようになりたい。

会2 薛

今回の新人合宿では事前から準備しておくことをおろそかにしてしまったことが最初に反省で告げられる。まず、初めて新人合宿で山に入るといふ一年生に対して装備についてしっかりと説明しなかったことだ。2回目の装備チェックで“シュラフカバーを見して”と伝えたらシュラフを入れてあったスタッフバックを見せられたり、会4が置いていったボロボロの足も合っていない靴を履いてきたり、ビジネスマンが履くような薄い靴下を持ってきたりと散々だった。これも自分が新人ゼミで伝えたり、1回目の装備チェックの時にしっかりと伝えていなかったりしたせいなので、分かりやすい説明と質問しやすい環境を作っていかなければならないと痛感した。

が宿が始まり実際に山に入ってから、上級生として未熟ながらも雪訓、生活、行動と一通りのことを教えられたと思う。しかし、本当に一通りのことが教えられたのか？会2としてノウハウも少ない、経験も浅い、山のことを伝えられることはごくわずかに限られているので各自でしっかりと考えながらこれから知識も技術もどんどん吸収していく必要があると思った。涸沢走りは2年連続1位になれたので体力も驕らずつけないといけなかな。

最後に、こんな頼りない上級生を入山日からサポート・見守ってくださったOBの塩谷さんを始め、槍アタック日にサポートで入ってもらった大島さん、こーすけさん、坂井

さん等の実力のある方達のおかげで合宿が無事完遂できました。ありがとうございます。そして、一緒に頑張った同期の2人には感謝しかありません。ありがとうございます。1年生達、これからが本当に楽しく、スリル満点のすばらしい山漬けの学生生活が始まるのでたくさん登りにいこう！

会1 金子

今回の新人合宿では、たくさんの反省すべき点があった。まずは行動面だ。先輩方から散々言われてきたことであるにもかかわらず、私は斜面によってピッケルの向きを変えることや上方注意を何度も怠った。これは命を危険にさらす行為である。先輩方が口酸っぱく言うことはそれだけ重要であり、実際、落石を見たときには当たたらひとたまりもないだろうと思った。にもかかわらずそれらを怠ったのは、完全に斜面への意識が甘すぎたことの証拠だ。山ではミスが死に直結する。このようなことは許されないと肝に銘じる。さらに、私は行動記録の大半を記録し忘れた。合宿の後でわかったことだが、行動記録は自分たちや他団体が山行計画を立てる際に必要になる。記録をつけ忘れたことはたしかに大問題だが、それ以前に意味を理解せずに放置していたことがより重大な問題だ。先輩に尋ねるなり自分で調べるなりいろいろ方法はあったはずである。山行全般に言えることだが指示のあることだけをして、自分で考えて行動することが欠けていた。同じように読図も指示の出たときにしかやらなかった。誰かに任せっきりにしている状態は、事故を誘発し、あるべきパーティーの姿とは到底言えない。もっと自分で考え

て行動しなければならぬ。次に生活面の反省に移る。最も反省すべきだったのは、あらゆる行動が遅かったことだ。朝、テントから出るのが遅い。パッキングが遅い。エッセンの準備が遅い。動きが頭に入っていないからということもあるが、最大の理由は物の整理整頓ができていないからだ。テント内の物は散らかり、高く積まれて、ときには他人のスペースにまではみ出していた。これでは物を取り出すのに時間がかかるだけでなく、当然物をなくしたり忘れてしまう原因にもなる。また、行動用手袋を雨蓋ではなくザックの底のほうにパッキングしたため、使いたいときに使えないことがあった。物は用途別に袋でまとめて、位置を固定・把握するようにしたり、小さくできる物はできるだけ小さくしたりといった工夫をする必要がある。最後に雪訓の反省点だ。どんなに疲れていても確実に歩行できる技術を身につけるというのが雪訓の目的だ。しかし3日間の雪訓を終え、槍アタックで雪渓を登った時、何度も足を滑らしかけた。疲れてきて地面に足を蹴り込む力が弱まったことが理由だが、これでは雪訓をやった意味がない。滑り落ちたら命にかかわるという意識が足りなかった。加えて、私はクライムアップ・クライムダウンを行うときに足を滑らすことが、同級生と比べても格段に多かった。この技術は急な斜面で使われるため、これで足を滑らすということは死に直結する。雪訓中は単に蹴り込みを強くしようとただただだったが、後から考えるとそこまで滑る原因は蹴り込む角度や体重のかけ方など他にもあったのではと思う。山では冷静になって考えると8というのはとても大切なことだ。それが

できなかったということは致命的であり、普段から頭を使って生活し、冷静に考えることの練習をしておく。私の雪上技術のレベルは完全なものとは程遠い。これから雪上を歩くことも多いだろうが、そのたびに歩行を練習するようにする。最終的に私は槍に登り、無事故で合宿を終えることができた。これは、身を守る技術を教えてくれた人、山で生活するうえでの知恵を教えてくれた人、雪渓にトレースを作ってくれた人、ロープを張ってくれた人などがいたからこそできたのであって、けっして自分ひとりの力によるものではない。そのような方々のおかげで山のすばらしさと恐ろしさを知れた。感謝するとともに、もっとその人たちを観察して自分のものとして技術や知恵などを吸収できたのではないかと思う。今回の新人合宿を通して、周りが見えていないということを痛感した。実力がある人を観察して真似するのがとても少なかったことに加え、歩行中に上を見ない、テント場につき先輩が次の行動の準備をする中で寝転がる、指示のあるまで動かない、などあまりにも周りに意識がいていなかった。今回の反省を、反省するだけにとどまらず、忘れずに次からの山行に活かすようにする。

会1 亀井生活

まず今回の合宿の生活面で主に目立ったのは4点である。1. エッセンを作る遅さ 2. 天気図の書き方 3. 収納 4. 全体的な遅れ
1. エッセンの作る遅さの原因は、野菜の切り方や火気の使い方の不十分さにあると思う。この点に関しては、下界の場でも改善

できるので必ず練習することが大切だと思う。野菜に関しては、にんじんの切り方などで上級生から注意を何度も受けてしまったので特に練習しようと思う。また、薄く切らないと火が通りにくくなり、エッセンを作る時間が遅れて、山の中では命にかかるとなのでしっかり意識したいと思う。

2. 天気図に関しては、全くダメだった。

1. 2回練習して、完璧でもないのに平気だろうと慢心していた。山の中で携帯が圏外などになった場合、天気図をみて、次の日の工程を決めるのにつけなかったら全く意味がないものすごく実感した。下界の場でこれもしっかりと練習しようと思っただけで、特に高気圧、低気圧から次の日の予測などもできるようにするべきだと思った。

3. 収納に関しては、テント内でもそうだし、朝起きてからのパッキングなどもそうだと思う。特にパッキングに関しては、毎回自分の遅さによって体全体の遅れをとってしまった。これは本当に良くないと思った。山に入ったら、時間との勝負だし、山は待ってくれない。上級生の方に何度も注意されたので、下界でしっかりと練習したい。また、テント内での生活も同じ。日頃からゴミなどを散らかさないようにしたい。ゴミがころがっていて、火が底についたりなどしてしまったら、仲間の命を奪うことにもつながってしまうし、そういう雑なところが山では命取りになってしまうから、本当に気をつけたい。4. 全体的な遅れ、これに関しては全てに通ずると思う。パッキングもそうだし、日頃から雑なところを直していけば、良くなると思う。行動行動に関する反省は主に3つある。1. 上方注意等の安全に関するもの。2. ピッケルの

持ちて3. 体の遅れをとってしまったこと。

1. 上方注意などに関しては何度も下界でも言われていたのですが、やはり実際に山場に入ると、疲れなどで軽視しがちになっていた。これは命に関わるし、実際2日目の涸沢では、大きな岩が雪の上から降ってくるのを目で見た。塩谷さんが、いち早く気づいていてすごいと思ったが、上を見ることは、自分でもできるのでしっかりやるべきだし、やらないと思った。2. ピッケルの持ちてについても同じである。疲れてくると蔑ろにしがちだった。しかしこれも自分の命を守るためだし、意識すべき。3. 体の遅れをとったこと。これは先ほどの生活とも通ずるところがある。特に、パッキングの仕方が下手な故や雑な性格があるからだわかっている。そこを治そうと思う。また、山上を見ながらいろいろなことをしなければならぬなどと考えていたから遅れてしまったということもある。しっかりやるべきことを確認してからガッシャーをおろして休憩などしていきたい。後、今回は靴のサイズが合わず爪が潰れてしまうということもあった。この点に関して、山を舐めていた、ということがあった。タイ全体の遅れは、自分だけでなく仲間の命も失いかねないのでしっかり意識したい。雪訓

雪訓の反省点は多いが主に2つある。1. 体力や足の痛さからの蹴りの弱さ 2. 技術的な面の理解不足 1. に関してまず前の人が踏んだトレイスを頼りに自分はサボりがちになっていた。しかしこれのせいで何度も滑ってしまった。これでは後ろの人にも迷惑がかかるし、下手すれば命を奪ってしま

うこともある。しっかり踏み込んで、滑りそうな時や、歩幅が合わなければ、自分で蹴り込んでいくべきだと思う。やはりここでも足を大きくあげたりすることから、体力消耗がある。体力に関してもやはり下界でつくとくべきだと思った。2. に関しては、理解できてないところも多々あった。例えば、横にトラバースする時、なぜ山側の足から上げるのかなど、1つずつ考えて理解するべきだったと思った。特にピッケルストップの時回り方も考えれば、1つの方向にしか、回ってはいけないなど考えられるのに。意味があって1つずつの行動があるので考えながらやっていきたい。感想 今回の合宿を通して、山を舐めていたということが1番だった。初めて山に入ってみると、自分の考えの甘さがわかった。ただ山頂を目指して歩くものだと思っていたけれど全く違った。山は自然であり、何をすることも予測できない。1秒後には、大きな岩が落石することもあるし、雪が崩れることだってある。そんなこと全く考えられていなかった。自分の命だけでなく、仲間の命を簡単に奪いかねない。これからはこの経験を大切に反省点を下界でしっかり克服して、仲間に迷惑をかけず、頑張りたい。まずは、体力をつけようと思う。

会1 木村

今回の新人合宿は自分の技量不足を痛感すると同時に、信州大学山岳会の一員になったことへの喜びと、これからの活動に対するワクワク感を抱いたものとなった。

【行動】

合宿を通して指摘され続けた上方注意は、自分の余裕がない時や、帰りで油断している時に怠ってしまった。雪訓中に落石のリス

クを十分にわかったつもりであったが、多分大丈夫であろうという油断をしてしまっていた。何かあるかもと常に考えて、気をつけるようにしたい。また、歩行技術の不足を痛感した。足を置いてはいけない場所の判断がつかず、小石を落としてしまったり、足元を滑らせたり、バランスを崩してしまったりした。重いガッシャーを背負っていれば明らかに転倒していた。また、体力面には自信があったが、完全にその自信は打ち砕かれた。高校卒業からのブランクがあるからと言い訳したいところだが、単純に基礎体力が不足していた。週末山行では不十分であると思うので、平日中にもトレーニングをする必要がある。一本中にもすべきことができなかった。給水とレーションの補給をするだけで手一杯になり、時間の記録や読図、衣服の着脱、日焼け止めをつけるといったことができないことがあった。どこに何が入っているかを完全に把握しきれていなかったことや、一本後の行程を全く把握できていなかったことが主な理由かと思う。一本中は単に休憩するものではなく、次への準備の時間でもあるということを念頭に置きたい。また、塩谷さんと一緒に歩くという貴重な経験を、初めての山行でできたことが良かった。塩谷さんが真後ろを歩いていて、とても静かに歩かれると感じ、安定した歩行技術というものを少し感じることもできた。さらに、要所では塩谷さんが後ろにいらっしゃることへの安心感もすごいと思った。周囲の環境や地形、天気といったことにまで気を配られているように感じたし、リスク管理を自分自身で行えるようになりたいと思った。読図のコツや植物についてなど、様々なお

話を伺うことができ、とても楽しかった。同時にもっと山に関して深い話をお聞きしたかったのに、自分の知識と技量不足によりそれができなかったことが非常に残念であった。

【生活】

生活全般的に、次にやるべきことを考え優先順位をつけること、周囲に気を配ることの二点ができなかったに尽きると思った。具体的には、火器が空いてしまったり、エッセン時のものの配置が悪かったりした。自分の手が空いて初めて、次に何をするか考えてしまっていたが、やっていることが終わりそうなら、どこに人手が足りていなくて何をしたらいいのかを確認する癖をつける必要性を感じた。また、スタッフバックの扱いが悪く、朝シュラフを畳むのが遅かった。これだけにとどまらず、扱い方に慣れていないものがいくつかあったので、そこは下界でも練習しておきたい。また、火器に白ガスを補充し忘れ、途中で燃料がなくなってしまった。使用後に燃料の残量をきちんと確認しなかったために起こったミスであり、自分が火器担当でなくても気にかけるべきだったと思った。天気図は完全に練習不足だった。

【雪訓】

雪訓では安定した足場をしっかりと確保することの重要性を実感した。足場が崩れると滑落の危険もあり、足場に不安があるとそこにばかり意識が行ってしまい他のことに集中できないからだ。自分が余裕を失うと、上方注意も怠ってしまうし、雪上での落石は本当に音もせず、その危険性を感じる機会もあったので、雪上では特に確実な歩行技術の重要性を感じることができた。

また、自分は斜め上、横トラバースで蹴り込みが甘く、斜面につま先が弾かれがちだった。後半ではうまくできることもあったが、硬い雪渓でもしっかりと蹴り込めるようにしたい。ピッケルストップでは他の人よりも制動距離が長かった。これは主にピックへ体重をかけるのが甘かったからだと思う。絶対に滑落は避けなければいけないが、助かるための最終手段であることを肝に命じておきたい。人生初の北アルプスが残雪期のあの槍ヶ岳。しかも天候にも恵まれた。山頂からみた景色や感動は今後忘れることはないだろう。山岳会に入って良かったと思ったし、山に登る楽しさも十二分に味わうことができただろう。一方で全ての環境が整えられた中で登ったことで、物足りなさのようなものも感じた。行程は前の人についていっただけだし、道はかなり整備されていて、歩くことに困難はなかったし、穂先のアッタクは荷物もなかったし、自然の脅威も感じることもなかった。もっとありのままの自然を楽しみ、計画や判断も自力で行うような山行をやりたいと思った。道中で見えた岩や山について塩谷さんからお話を伺い、純粹に登ってみたい、あの山頂に立ってみたいと思えた。今までは山岳環境が整っていないことを嘆いていたが、今は自然の資源には恵まれているにも関わらず、自分の技量不足により登れないもどかしさを噛み締めるばかりであった。今回の新人合宿では、お忙しい中同伴してくださった塩谷さんや会5の方々、送迎してくださったOBの方、そして、たった3名で平日も長野から松本まで来てくださり、指導してくださる会2のみなさんへの感謝の気持ちがわいた。同時に、何もでき

ない自分の情けなさを痛感した。本来は山岳会における合宿は全て現役で行うものなのかもしれない。しかし、今回は多くのOBの方にご協力いただいた形となった。一方で、私は信州大学山岳会の魅力や、OBの方々の山岳会への思い入れも実感することができた。また、奥又白慰霊碑を掃除した時には山岳会の一員として身の引き締まる思いもした。新人合宿を通して信州大学山岳会の一員になれたことへの誇りを感じるとともに、会3、4がいないことへの不安感と、逆にこのメンバーでどのようにして、どこまで強くなれるのかといった期待感を抱くことができた。これからの6年、信州を遊び尽くせ！

会1 林

生まれれば終わる。憧れ続けたSACでの初山行が終わった。振り返れば抱えきれないほどの失敗をして、迷惑をかけ、呆れられたと思うし、自分自身に対しても大きく失望したが、それでも性懲りなく山に行きたい。SACに見合う自分になるための反省をしていこうと思う。

●行動

配慮されてばかりの七日間だった。歩荷すれば、人よりも早く息が上がり、アタック装備での行動でもついていくのに必死、常に前の方を歩かせてもらい、水も一番に空けさせてもらっていた。気を遣われる対象にあることへの悔しさと、実力とのギャップがたまらなく苦しかった。自分は理想ばかりが先行して中身が全然伴わないスカスカの人間だなあと恥ずかしく思った。そして体力がなくなってくると自分ですぐに言い訳の材料を探す癖もやめたい。自分がしたいことは何なのか、しっかり見つめ直して

自分を嫌いにならないうちに努力をする。この体力のなさは他のミスを引き起こす原因にもなった。

合宿中に数えきれないほど「上を見ろ」と言われたのに、最終日の私は酷かったと思う。言われなければやらないという甘えた姿勢は、指導してくれた上級生や、頑張ると決めた過去の自分にも失礼な行為だった

人に助けてもらってばかりなので自分が誰かを思いやれる存在になる。

●生活

普段生活の怠惰さが山でも出てしまっていた。荷物を広げ共有スペースを奪っていたり、鍋持ちしている時に片手を離していたり、ライターで軍手と親指を少し焦がしてしまったり同じテントのメンバーや隊全員にも影響するようなミスがあった。そして朝ラーやエッセンの手順など、一回目はまだしも二回目三回目も、次の行動を予測して準備できていなかった。上級生が何も言わなくていいくらいの手際でやり通したい。

●雪訓

雪訓の初めに行われた涸沢走りは全然早く走れなかったのにとてもきつかった。「バシリ」なのに半分以上歩いていた。下から、駆け上がっていく同期や上級生を見上げることしかできなかったのが本当に悔しかった。抜けるような青空にドカンと居座る太陽がジリジリと乏しいHPを奪っていき、ゴールした瞬間には倒れ込んでいた。来年はもう少しマシンな走りをしたい。

雪訓自体はモチベーションを最後まで保つことができていなかった。それが蹴り込みの弱さという妥協に繋がってしまった。訓練を訓練として頭の中で自己完結してしまっていたのだと思う。いつだって「山に登り

たい」という初期衝動を忘れずリンクさせておきたい。

反省会の時に塩谷さんに言われた、「できた気にならないでほしい」という言葉がすごく自分の中に残っている。訓練はこれからもずっと続いていく。

●感想

自分がやりたかった世界に連れて行ってもらい、少しだけ覗いてみたら、自分ができるとの距離が大きく深く開いていることがはっきりした。ここまで遠いと逆に清々しさすらある。槍ヶ岳への道のりのように、一步一步進むしかとんでもないところにたどり着く方法はない。私はできない理由を探し回って、帰着点を決め、憧れを諦めるような自分では居たくない。やらないうちから悟ったふりはしたくない。だからもうなんていうか、ガッシャーになりたい。全てを飲み込むブラックホールみたいなガッシャーになりたい。

会1 日々

自分は一週間の合宿を経て自分の山に対する認識が非常に緩かったこと、自分に対して甘いこと、体力のなさ、技術力のなさなどを痛感した。また何度も同じ失敗をし、やってはならない失敗もしてしまった。以下テーマごとに反省点をまとめていく。

生活

エッセン中鍋持ちをしているときに疲れやテン場にいることの安心感から気が緩んでしまい、沸かしている途中の後茶をブス板の上にこぼしてしまった。これは同期が苦勞して担ぎ上げた水や茶袋を無駄にしてし

まう行為であり、もしブス板の上でなくテントに直でこぼしたらテントが溶けてしまうし、人にかかってしまえば大火傷になり敗退につながってしまう。この失敗は快適な生活を送るうえで論外の行為であり絶対やってはならないことであった、猛省し今後はテン場にいても一定の緊張感を保ち、火器を扱っているときは危険なものを扱っているという意識を忘れず、二度と同じような失敗はしないようにする。また、軍手を付けたままアラジンに触ることを何度もしてしまった。これは軍手が濡れてしまう可能性があるということに対する危機意識が低いために起こったことである。今後は意識を変えて同じ過ちを繰り返さないようにしていく。

また、テントを出る際に何度も言われたのにテントを開けっ放しにしてしまうことがあった雨や雪が降っていなかったからよかったものもし降っていたらそれがテントの中に入り込んで、テント内にあるものが濡れてしまい快適なテントを台無しにしてしまうので今後は絶対しないようにする。

行動

ピッケルの向き、持ち手の誤り、上方注意、落石注意の不足、基本的かつ山で行動するうえで非常に重要なことができておらず何度も何度も上級生に指摘されてしまった。山では一つ一つの行為が命に直結することを忘れないように今後の山行では基本的なことが当たり前できるようにしていきたい。また、疲れてくると足元ばかりを見て上方注意しなかったり、ただ上に顔を向けているだけになってしまった。下山中など疲れているときに事故は起こりやすいことを自覚して、今後は疲れているときだ

からこそしっかり上方注意をするように意識する。

雪訓

直下降の練習で何度もふらついた、これは筋力不足や体幹が弱いことが原因にあげられる。また指摘されたのに蹴りこむたびに足先や差しこむ角度が変わり何度も蹴りこんでしまった。これは無駄な体力の消耗につながるうえに隊のタイムロスにもなるので下界でちゃんと練習して効率よく“確実な”歩行技術を身に着けられるよう日々努めていく。

また滑落停止訓練の時に自分の声が小さく聞き取りづらかったと思う。これでは吹雪で事故が起きたときに助けを求める声は絶対仲間には届かない。大きな声を出すことは安全に山をやるうえで非常に大切であることを自覚し、山行準備や総会などでも大きな声を出すようにし吹雪の中でも通るような声を出せるようにしたい。

その他

行動中や雪訓の時にスパッツのゴムが緩くなっており何度も足首付近まで落ち、スパッツが外れて雪訓を中断し隊の行動に遅れを出してしまった。時間が大切な山では隊全体の行動を遅らせてはいけない。これは家でちゃんとスパッツを着用し確認すれば避けられたことであり自分の準備不足である。準備を不足なくやることは当たり前なことなので今後は絶対に準備不足で仲間迷惑をかけるないようにする。

まとめ

全体的に反省点の非常に多い新人合宿となった。今後の山行ではこの反省を生かした行動をしていこうと思う。いろいろあったが一年生が一人も欠けることなく槍ヶ岳の

頂上に立てたのはとてもうれしかった。一緒に新人合宿を乗り越えた同期には感謝できない。

最後にわざわざ時間を割いて指導して槍ヶ岳まで連れて行ってくださった上級生、OBの皆様にも心より感謝申し上げます。

会1 田中

生活：テントでの生活において、手順を覚えきっていなかったということが最大の反省点である。朝ラーや、エッセンの手順などの概要は覚えていたが、細部までは覚えきれておらず、上級生の方々に指摘されて初めて思い出すという機会が度々あった。例えば、朝ラーで鍋置きとして使う給水タオルの準備などである。このような細かい部分の曖昧さが原因でタイムロスが重なり、結果的に全体の行動が大幅に遅くなっていたように思う。また、共同生活の中で仲間への気配りやコミュニケーションが足りていなかったということも反省するべき点である。声掛けを躊躇することによって、自分を含めた誰か一人に負担が集中することがあった。生活の手順を完璧に覚え、仲間を気遣い、頼ることが出来るようになる必要がある。

行動：雪訓にも共通することだが、自身や他人の命を守るための努力をおろそかにしていたということが最大の反省点である。登山において最も重要で基本的なスキルは確かな歩行技術である、と何度も教えていただいた。しかし、気の緩みや甘えから、私は勝手に上方注意やピッケルの持ち方に対する意識を低くしていたと思う。具体的には眺めるだけの上方注意やピッケル

の持ち替え忘れなどだ。反省会でも度々触れられたことだが、意識の伴わない表面上だけの注意には何の意味もない。特に上方注意やピッケルの持ち替えなどの行動に慣れていない私にとってはなおさらである。行動の意味を十分に理解し、常に意識的に行動することが重要であると感じた。

雪訓： 前述の通り、雪訓における最大の反省点も意識の低さである。特に疲れが出てきた際の蹴りこみに自身の甘さが顕著に表れていたと思う。疲れてきて半ば適当に蹴りこむ、不安定な足場ができる、蹴りこんだ勢いのまま惰性で体重を移す、足場が崩れる。という同じミスも雪訓だけでなく、今回の本番とも言える槍ヶ岳への登りでも犯してしまった。この場合、意識を高めることはもちろんだが、歩行技術を身体で覚えてしまうことも必要であると感じた。雪訓で学んだ歩行技術をかみ砕いて理解し、意味を理解したうえで身体にも覚えさせなければならない。雪のない登山道でも今回学んだことを意識して実践し、絶対に転倒しない歩行技術を身につける。

感想： 今回の新人合宿で露わになった私の課題は、結局自身の意識の低さと積極性のなさに帰着すると思う。意識が低いからこそ妥協を許してしまうし、積極性がないからこそ一言の声掛けができない。精神面での課題と技術面での課題の両方を克服するためにも、同じミスは二度と繰り返さないという覚悟を持って、教わったことの実践に取り組んでいきたい。

会1 吉田

新人合宿の反省と今後の決意を以下に述べる。

まずは行動についてだ。合宿を通して常に上方注意が足りなかった。2日目以降は特に落石箇所も多く上級生に注意喚起されることが多かった。しかしその場を通り過ぎた後、足場が悪くうまく歩けない場所、下りで集中力が欠けているときなどで特に上方注意が足りなかった。今まで自分が山を歩いているときいかに危機感なく登っていたかの認識となった。また、目だけでなく耳なども使って周りに意識を向ける。また、特に細かく曲がる箇所や下りではピッケルの向きや持ち手を間違えることが多くあった。すぐに直せることなので自分が山にいるという危機感と緊張感を忘れずに行動する。そして一本の時間の使い方が下手だった。装備の脱ぎ履きが遅い、ガッシャーや雨蓋の閉め忘れ、行動記録の取り忘れ、斜面に背中を向けるなどの至らない点があった。効率よく動いて時間を作ったうえで、現在地点の確認や次にみられる地形を確認できるようにする。槍アタックの日では自分の体力不足で隊を待たせてしまった。体力向上に努める。

次に生活についてだ。すべての行動が遅く、周りを見れていなかった。具体的にはシュラフをたたむのが遅い、火器を使うのが遅い、野菜切りやや朝ラーの準備を上級生に手伝ってもらい、朝ヘッドランプ頭につけていない、水をこぼす、トイレに忘れ物をするなどだ。普段の山行では撤収までを1時間で行わなければならない。今のままのスピードでは絶対に間に合わない。個々のスピードを上げる練習をし、周りとうまくコミュニケーションをとって全員がストレスのない生活ができるようにする。天気図はより滑らかに等圧線を引くこと、

気象知識を深めて予報を立てられるようにすることが課題。

そして雪訓についてだ。具体的な反省は蹴りこみが甘い、つま先が上向きになる、上方注意不足、ピッケルの差し込みが甘い・浅い、クライムアップ・ダウン時の手と足の感覚が狭い、進むのが遅い、「落ちた」と叫ばない、ピッケルストップでピックに体重を乗せていないなどである。一発で安定した足場を得られないことは体力消耗につながるため、疲れていても足を遠くに出し、体をうまく使い蹴りこみを行えるようにする。体重移動をうまく行って滑らない、転ばない歩行を目指す。「落ちた」と言わないことは死に直結する。絶対に言う。最後に感想を述べる。新人合宿において自分の甘さ、山に対する危機感の欠如を思い知った。終始余裕がなく、自分では気づけていない自分の足りない部分もたくさんあると思う。けれど、槍ヶ岳や遠くに見える山々はとてもかっこよかった。猛烈に憧れた。そして何よりOBの方々や上級生がとてもかっこよかった。「自分で登った」槍ヶ岳というより、「頂上まで引き上げてもらった」槍ヶ岳という感じだった。技術も体力も知識も一朝一夕では身につかないと思う。根気よく山と自分に向き合い、かっこよくなりたい。生きている瞬間すべてが山につながっていると思い、生きていきたい。最後に私たちの指導に尽力してくださったOB、上級生の方々本当にありがとうございました。

会1 小嶋

今回の山行は無事に帰って来れたことはよかったのだが、反省や後悔の残るものと

なってしまった。その最たる例は股関節の痛みにより二日間のテント待機を余儀なくされたことである。その痛みたるや下界で普通に過ごしては考えられないものであった。足が持ち上がらないのだ。何日間も歩き続けることなど今までなかった体験ではあったが、予期できなかった私に落ち度がある。この屈辱的な経験を二度と繰り返さないよう、日頃のトレーニングが必要であろう。

生活面にも後悔は残る。朝の時間が貴重であるとは重ねて言われてきたのにもかかわらず、時間通りに目覚められなかったのは問題である。単に目覚ましをかけ忘れただけのことで出発が遅れるのは避けたいものだ。これに限らず、事前に準備が可能なものはすべきであるとの気づきを得た。

雪上訓練というのはほとんど初めての経験だった。ここでも踏み込みに関する注意を何度も受けた。初回ならまだしも複数回の練習を重ねたうえでの失敗が多く、自らの注意不足を痛感した。

行動、生活そして雪上面での振り返りを行ったが、総じて自らの見通しの甘さや不注意が招いたものであった。自分の失敗は仲間にも迷惑をかけることとなるので、意識して改善に取り組みたい。

会1 森

初めてのテント泊、初めての本格登山など今回の新人合宿では多くのことを経験した。行動、生活、雪訓について反省点をまとめていく。まず行動だが、今回の一番の反省は上方注意ができていないことだ。初日から何度も注意を受けていたのにもかかわらず、最終日の横尾から上高地バスター

ミナルの間で全くできていなかった。上方注意ができていないと落石に気づくことができず、命を落とすかもしれない。これからの山行では常に上方に意識を向けながら歩いていきたい。また、ピッケルの向きを斜面にあわせて変えるということもできていなかった。これでは足を滑らせたときときに初期停止ができず、そのまま滑り落ちてしまうかもしれない。上方注意とピッケルの向きは歩き疲れた時によく忘れていた。疲れている時こそ集中して周りに意識を向ける必要があると感じた。次に生活だが、今回の一番の反省は動作が遅いことだ。まず、朝起きてからシュラフをしまうのに先輩の倍ほどの時間がかかっていた。シュラフをたたむのに時間がかかると、朝ラーの準備も遅れてしまう。朝の時間は貴重なので少しでも動作を速くしたい。また、エッセンでは自分の仕事が終わった後に何もせずに過ごす時間が多かった。常に周りを見て自分の仕事を探すようにしたい。さらに、テントの入り口を開けっぱなしにしてしまう、荷物がまとまっていないなどの反省点がある。テントの入り口が開いていると、雨や雪が中に入ってしまい荷物が使えなくなってしまうかもしれない。また、荷物がまとまっていないと準備に時間がかかったり、物をなくしてしまうかもしれない。テントの中で快適に過ごすためにも、このようなことには気を付けて生活していきたい。最後に雪訓だが、今回の一番の反省は安定した歩行ができていないことだ。特に直下降や斜め下トラバースで蹴り込みが上手くできていなかった。固い雪の斜面を歩くときに何回も転倒することがあり、初期停止も上手くいかずに流されて

しまうこともあった。それだけでなく、歩幅が小さいので歩行中に大きく遅れをとることもあった。このままでは大変危険なので先輩や同期からの指導をもとに今後の山行を通してすぐに改善していきたい。また、ピッケルストップも上手くできたとは言えない。何度指導を受けても肩から体を回すことができず、いつも足から回転していた。また、ピッケルの石突の部分が斜面にあたってはじかれることが多かった。これはピックの部分に体重がのっていない証拠なので、直していきたい。ピッケルストップは自分の命を守るための最終手段として重要な技術なので、しっかりとできるようにしたい。また、自分が落ちたことを知らせるコールの音が小さく、止められることがあった。自分が落ちたことを知らせられなければ誰も助けに来てくれない上に、吹雪や強風のなかでは声が通りづらいので大きな声が出せるようにしておきたい。今回の雪訓でわかった自分の問題点は日頃から練習できるものもあるので、山に行かないときにも練習しておきたい。新人合宿を通して、自分は周りが見えていないことが分かった。山では周りの環境の変化に気づくことが重要なので、たとえ疲れていたとしても下を向いて歩かずに、周りをよく観察するようにしたい。このことはテントでの生活やエッセンにも生かされると思うので、日頃から意識していきたい。最後に上級生の皆様、合宿で指導していただきありがとうございました。

夏合宿

日程

9月5日～10日

記録

9/5(火) 曇り

9:20 室堂

10:00 雷鳥沢キャンプ場

12:00 劔御前小舎

12:40 劔沢野営管理所

現役12人とOBの竹田さんの13人で入山した。室堂で外に出ると、ガスっていた。

1年生の体調や縦走の様子から、立山は回らずに入山する方法を取った。1年生のガッシャーは平均35kgくらい。



9/6(水) 雨

3:00 起床

4:05 発

4:35 劔御前小舎

5:35 室堂乗越

6:35 奥大日岳

7:30 室堂乗越

8:30 劔御前小舎

8:55 劔沢野営管理所

この日は10時頃から雨予報だったため、早めに出て奥大日で引き返す判断をした。体調不良者もいたため、テン場に4人を残し、9人で行動した。危険箇所は特になかったが1年生の落石に対する意識が低いと感じた。11時頃に塩谷さんがテン場に合流した。

9/7(木) 晴れのち曇り

〈本峰南壁隊〉

メンバー：椎屋(2)、吉田(1)、塩谷さん(OB)

3:00 起床

4:05 発

4:30 劔山荘

5:35 前劔

6:50 取り付き

10:00 劔岳

11:40 前劔

12:40 劔山荘

13:00 劔沢野営管理所

2ピッチ目の終了点作成に工夫がいる。3ピッチ目以降はロープを出すか出さないか、コンテで行くかなど総合的な判断が必要。登攀難度よりシステム構築難度としてグレードを見たほうがいいのかもかもしれない。



〈源次郎隊〉

メンバー：薛(2)、小嶋(1)、田中(1)、森(1)、
竹田さん(OB)

3:00 起床

4:15 発

6:00 取り付き

11:30 I 峰

12:20 II 峰

13:15 劔岳

14:50 前劔

15:50 劔山荘

16:10 劔沢野営管理所

晴れていたが岩が濡れており、ロープを出す回数が多かった。一年生の登攀能力はまだまだ伸び代があると思う。源次郎で苦戦している人もいれば余裕そうな人もいたので全体として振れ幅が小さくなれば良いと思った。



〈縦走池ノ平隊〉

メンバー：黒木(2)、金子(1)、亀井(1)、木村(1)、林(1)、日比(1)

3:00 起床

4:05 発

5:15 平蔵谷出合い

6:30 長次郎谷出合い

7:05 真砂沢ロッジ

8:30 近藤岩

10:00 真砂沢ロッジ

10:40 長次郎谷出合い

11:20 平蔵谷出合い

12:50 劔沢野営管理所

計画では、池ノ平まで行く予定だったが、時間とメンバーの体調の関係で近藤岩までで引き返した。平蔵谷出合いと長次郎谷出合いの2か所で雪渓を渡った。安定していたが、アイゼン、ピッケルを付けた。

9/8(金) 雨

〈別山北尾根隊〉

4:00 起床

5:20 発

5:45 引き返し

6:00 劔沢野営管理所

天気予報と相談して、劔岳には行かずに近場の岩場に行くことにした。しかし、歩きだして30分で雨が降り出してしまったので、稜線に着いてすぐに引き返した。

〈別山岩場隊〉

4:00 起床

5:05 発

5:25 取り付き

5:35 待機後折り返し

6:05 劔沢野営管理所

天気が悪く、ガスっていたので確認できなかった。

9/9(土) 曇り時々雨

〈本峰南壁 A2〉

メンバー：黒木(2)、木村(1)、竹田さん(OB)

3:00 起床
4:05 発
4:25 剣山荘
5:20 前剣
6:40 取り付き
10:45 劔岳
12:05 前剣
12:55 剣山荘
13:20 劔沢野営管理所
14:00 劔沢野営管理所発
16:55 真砂沢ロッジ

この合宿は、天気があまり良くなかったので、計画より1日登攀日を伸ばした。ロープは4ピッチ出した。2ピッチ目の途中で雨が降ってきたがすぐに止んだ。最初は岩が濡れていたが、最後の方は乾いていた。山頂に着いたときはガスっていて景色は見えなかった。



〈源次郎隊〉

3:00 起床
4:00 発
5:40 取り付き
8:35 I 峰

9:20 II 峰
10:40 劔岳
12:05 前剣
13:30 剣山荘
15:30 真砂沢ロッジ

全体的にメンバーの実力に応じたロープ出しが重要だと思われる。実力的にいらないと判断できればロープを出す回数を削減するなど容易にできる。逆に実力不足であればロープを出す所は増え時間がかかる。また、細かいルーファイミスに気を付けた方がよい。所々踏み跡なのかそうでないのか分かりづらいところがある。懸垂点は特に不安な点はなかった。



〈縦走劔岳隊〉

3:00 起床
4:05 出発
4:30 剣山荘
5:25 前剣
6:50 劔岳
9:10 前剣

ら自分の歩行技術ももっと磨いていこうと思う。

最後にこの夏合宿では体調不良者が出たが、その情報を把握できていなかった。これは1年生が言いにくい雰囲気を作っているのだと思う。特に歩荷の時は1年生を注意深く観察し、自分の感覚でダメだと判断したら1年生が何を言おうと軽くする判断をしなければいけないと思った。全体を通して、1年生にテント生活や行動記録を取るなど、週末山行から行っていることが身につけていなかったように思う。これは上級生が厳しく言ってこなかった証だと思うので、これからの週末山行で基本をもっと叩き込んでいこうと思う。

最後になるが、たくさんのOBの方々にサポートしていただき劔岳での夏合宿を行うことができた。来年は自分たちで夏合宿を作っていくためにこれから努力していく。

会2 薛

夏合宿の反省

今回の夏合宿は2年生として、初めて劔岳で夏合宿を行えたことはとても大きな経験となった。自分達だけでは劔で登攀合宿を行うことができなかったので、貴重な時間を頂いて協力をしていただいたOBの塩谷さん、竹田さんありがとうございます。しかし、自分達の実力では登攀合宿は行えないという現実もあるので来年こそ自分達で夏合宿を運営できるように経験を積んでいきたい。

さて、夏合宿の反省として2つのことがある。一つ目はロープ裁きが遅い、ロープを出す判断やルートファインディングが的確ではなかったことだ。上級生として1年生を連れていく能力として最も重要な能力のひとつ

つだと思い、今年から取り組んできたが、夏合宿で源次郎尾根を登った時に竹田さんの姿を見て自分はまだまだ実力不足だということが分かった。これから、冬合宿や来年に向けてもっとクライミングなど実践的なことを増やしていき、自信を持って後輩達を山に連れて行けるようになりたい。

二つ目は後輩指導についてだ。生活や装備、登攀や行動中において曖昧なことを言っていたり、具体的な指示を出すことが出来なかったりした。それによって一年生が混乱してしまったり、惑わせたりしてしまったので責任ある発言を意識して、具体的かつ分かりやすいことを意識して1年生に今まで受け継いだものやノウハウを伝えていきたい。

最後にここまで一緒に頑張ってきた同期の2人、ありがとう。そして一年生達、冬が始まるけど覚悟はできているか？これから充実した山漬けの生活が始まるけど頑張っていこう！

会2 椎屋

夏合宿の反省として強く感じたのは上級生としてパーティを見る能力が著しく低い事です。今回は会2の経験不足により塩谷さんと竹田さんに登攀を手伝って頂いたのですが、自身の登攀を振り返ると、手伝いではなくOBの方がメインの行動になってしまっていました。ロープ操作やロープを用いるかの判断などで、自分で考える場面が少なく、指示を待ち指示通りにやるという場面が圧倒的に多かったです。この時点で自身が主体の行動とはなっておらず、去年と何ら変わらない内容になってしまいました。最終的な判断はOBの方がするにしても、そこにたどり着くまでの過程に自身が入っ

ていないというのは一上級生として無責任な行動だと感じます。また、行動中軽い偵察のような意味合いで会1一人を連れて先行する場面があったのですが、その際にリーダーとして残りのメンバーも見なければならぬにも関わらず塩谷さんに任せきりというあまりにも頼りすぎた行動をしてしまいました。安心感があるからといってリーダーの責務を放棄してしまった事を重く受け止めたいと思います。また、南壁での取りつき点の見落としや源次郎尾根でのルーファミスといった根本的な実力不足も散見されました。自身が連れていく側だという意識がまだまだ低い証拠だと思います。さらには剣沢から真砂沢までの歩きのパートが長い場面で自身の疲れや集中力の低下が表に出てしまい、会1を見る事もおろそかになり、悪い空気を作っていました。疲れのない体を作る、集中力を切らさないといった基本的な事はもちろん、もしそうなったとしてもパーティメンバーに悪い面を波及させることが無いような立ち振る舞いを意識したいと思います。一人の上級生として、現状の最上級生として、自身よりレベルの高い人がいるかいないかに関わらず自身がパーティを引っ張って行くという意識と覚悟を今一度持ち直したいと思います。またリーダー会や山行計画の時点でも自主性の低さが垣間見えたように思います。やはり自身の性質として自分よりできる人がいると途端に任せきりになる面があるので、自身の意見や行動が結果的に無駄になるとしても主体性を持って活動していきたいと思います。そして一番の反省として、会1を一人での登攀にも連れていけなかった事があります。天候や日程の問題もありました

が、自分がまだ隊のお荷物であるというのが一番の要因だと思います。自分がもっとしっかりとした実力を持っていれば登攀、今回の場合は源次郎尾根で人数を一人増やすという選択肢もあったはずで、今後自分が要因で会1に残念な思いをさせる事がないよう確かな実力を身に付けていきたいと思います。一つ一つの山行、行動で自立し、自身の手で完遂させるという事を念頭にこれからも精進していきます。

会1 田中

今回の夏合宿では、自身の意識の低さや消極的な姿勢が原因となる反省点が多く見つかった。まずは行動に関する反省である。最も意識の低さが目立ったのは、上方注意やコールの返答、テストングといった基本的な点である。普段は怠ることはないのだが、疲れたときや、苦手な下りで遅れてしまっているときに怠ってしまった。特に疲れているときに怠るのは、自分への甘さ以外の何物でもない。こういった怠慢が原因で自分のみならず、他人をも危険に晒していることを分かっているはずであるのに、甘えてしまった。これからは自身の体力や下りの技術の向上に励むとともに、常に自分に厳しく接することとする。また、安全な歩行技術に関しても、自身の技術は不十分なものであった。特に、下りとガレ場での足の置き方が未熟であった。未熟である上に動き自体も遅かったため、隊の進行を遅らせてしまう場面もあった。新人合宿でも指摘された通り、安全な歩行技術を身につけないことには常に自他を危険に晒していることと変わらないので、毎回の山行を通して確かな技術を身につけたい。次に生活に

ついでに反省である。生活に関して、私が最も反省すべきことはテント修理に参加しなかったことである。風雨が強かった日にテントに付けていた細引きが切れ、フライが剥がされるという事態が起こった。これは直ちにテントの修理を行わなければならない非常事態であり、テント内にいた私はすぐにテントの外に出ていかなければならない場面であった。しかし私は、自ら率先してテントの外へ出ようとはしなかった。これも自身への甘さや、積極性のなさに起因している。結局のところ私は技術的に未熟であるばかりか、精神的にも未熟であったことを強く思い知らされた。この夏合宿の反省会において、主体性の欠如という言葉が挙げられた。今の私に大いに当てはまる言葉だと思った。自身を主体として捉えることで、自身の負う責任や義務を理解する。そして二度と同じ反省を繰り返すことがないように励んでいく。

会1 森

今回の夏合宿の反省点を生活、行動、登攀にわけてまとめていく。まず生活についてだが、エッセンで手順を間違えてしまうことがあった。私はエッセンの時に米炊きや鍋持ちをすることが多く、他の仕事をあまり経験していなかったことが原因である。これから行く山行では、自分があまりやってこなかった仕事を手伝うようにしたい。また、エッセンや朝ラーなどの準備で仕事を他の人に任せてしまうことが多かったと感じる。分担すれば早く終わらせることができたが、積極的に声をかけて仕事をかわらなかったことが原因である。朝の準備は少し早くなったと感じるが、それ以外は新人

合宿の時の反省とあまり変わっていないので早急に改善していきたいと思う。次に行動についてだが、今回の合宿では歩行技術の未熟さを痛感した。源次郎尾根を登っている際に落石を2回もしてしまい、1回目は落とすことにも気が付かなかったのて下にコールをすることもできなかった。自分の足を置く場所には常に注意して歩くようにしたい。また、つづら折りの道を下っているときに、上に人がいるにもかかわらず上方注意を怠っていたことも反省すべき点である。自分がどのような場所を歩いているのか常に周りを観察しながら歩くようにしたい。次に、疲れているときにコールに対する返事が小さくなってしまったことだ。返事が聞こえないとどこまで情報が伝わっているのかわからず、そのような状態で行動するのは危険なので、返事は必ず相手に届く声でします。他には、アイゼンの着脱に時間がかかってしまったことが挙げられる。夏合宿前にアイゼンの着脱の練習を指示されたにもかかわらずやっていたことが原因である。このようなことは二度とないようにしたい。最後に、行動記録を正確に取れていなかったことだ。これは休憩の際に時間をメモするということが習慣になっていなかったことが原因である。メモは出しやすい場所に入れておき、こまめに記録をとるようにしたい。最後に登攀についてだが、登攀の技術の未熟さを感じた。通過に時間がかかってしまうことが多く、自分がつかんだ岩が取れてしまいそうになることがあった。テストングが足りないことや、足場や手のホールドを見つけられていないことが原因なので、これからの山行やクライミングジムで経験を積んでいこうと思う。

最後に上級生の皆様、合宿で指導していただきありがとうございます。

会1 木村

行動

今回の合宿での反省点は大きく分けて二つある。怪我を隠して山に入ったこと、自分が登るルートや、山行の内容について何も把握していなかったことだ。上記の二点については、これまでの山行でもその傾向がみられていたにも関わらず、改善の姿勢を見せなかったことが、大きな問題である。

夏合宿の二週間ほど前の捻挫について、上級生に何も報告しないで入山してしまった。平地を歩いた感覚で、大丈夫だと安易に判断してしまい、テーピングも巻かずに入山してしまった。その結果、テン場までの道なりに足を痛めてしまい、集団とは少し離れて行動することになってしまった。一日の休養日を与えられ、テーピングで足首を固定することで、その後の縦走、登攀をこなすことができた。しかし、真砂沢までの移動で、団装を担ぐと痛みが再発し、歩行が不安定になってしまった。そして、後ろを歩いていた竹田さんから荷物をバラすように指示されてしまった。この時も、事前に上級生に足の状態を聞かれた際に、大丈夫と答えてしまった。以前の八ヶ岳全山でも膝が痛くなったが、その時は歩くのが困難になるまで我慢してしまい、結果途中下山した。山で行動不能になるリスクを考えない、身勝手な行動であった。八ヶ岳でも、チームで山に登っている以上、リスクに早めに対処すべきだと学んだはずなのに、今回も同じような行動をしてしまった。実際に一年縦走でも、メンバーの体調を把握することの重要性を実感した。体調や怪我のリスクは、悪

化する前に早め早めに対処し、チームとして対応するよう肝に命じたい。

また、今回の合宿で登攀するルートについて何も下調べをしていなかった。どこか上級生に連れて行ってもらうことに慣れすぎていて、甘えが出ていたように感じる。これまた一年縦走で感じたことだが、メンバーで一人でも山行の理解に不安があると、仮に何かあった時に隊としての意思決定に遅れが生じるし、危険箇所や水場、テン場、エスケープなどの情報を全員で把握していなければ、隊全体としての危機管理ができない。これまでの週末山行では、整備された登山道のみを使用し、山行期間もせいぜい3日だったので、そこまで必要にかられていなかった。しかし、バリエーションルートでは行程の把握の重要性が一層増し、また長期間山に入る場合は、計画とのズレが生じることが予想されるため、歩く行程全ての理解が求められる。冬に向けて、山行に対する姿勢を改めたい。

さらに、そもそも歩荷力が足りないと痛感した。夏合宿で初めて40キロを超える荷物を背負い、体力の消耗度やしんどさを実感した。たった3時間だったが想像以上に体力を削られてしまった。また、下りでは何度も足を滑らせたり、足がふらついてしまった。特に自分の上下に人がいる場合のリスクを感じた。改めて歩荷力と歩行技術の不足を認識し、今後の最大の課題であると思った。

登攀能力も明らかに不足していたが、これはクライミング力がないために余裕が持てないことと、経験不足から生じるものだった。バリエーションでは絶対に落ちないこと、自分の身は自分で守ることを教

えていただいた。竹田さんからは、来年、今回自分が登攀したルートくらいはリードできるようにと言われた。現段階では全く想像ができないが、今後もクライミング力向上に努めていきたい。

生活

三日目の暴風雨のあと、天候が回復する見込みだったことから、壊れたテントを放置してしまい、塩谷さんに指摘されてから修理作業に移ってしまった。しかし、天候がいつ崩れるかわからない状況では即急にテントを修理すべきだった。実際に剥がれたフライが地面に引きずられたため、幾つもの穴が空いてしまった。テントの故障は長期間山に入る上では死活問題である。そもそも天気が荒れそうなのに事前の準備が不足していたように感じる。今回フライは、引っ掛ける紐が千切れたために剥がれてしまったが、事前に紐を補強しておくべきだったし、外に風に飛ばされやすいものを置きっぱなしにしてしまった。また、山行準備の段階での点検の重要性を再認識した。今回の夏合宿で、初めてバリエーションを登攀できて、とても楽しかった。これこそ山岳会に入ってやりたかったことだと感じた。一方で、そもそも歩荷力と歩行技術が不足していることを再認識させられた。また、竹田さんと登攀させていただいたが、本当に自分にリードができるのかと思ってしまった。平日にはクライミング技術の向上を目指す必要性を感じた。

この夏、縦走を一つも完遂できず、あまり山に入ることができなかった。冬に向けた、安全管理や山での生活といった、総合的な登山技術がまだ不足している。プレ冬までの期間にできる限りのことは尽くしたいと

思う。

山岳会に入ったのは、登攀と冬山をやりたかったからである。気温が少しずつ落ち始め、冬が近づいているのを肌で感じる。まだまだ技術不足で、やるべきことは山積みだが、冬が来るのが待ち遠しい。

会1 林

剣は見上げるものだと思っていた、登山は移動し続けるものだと思っていた、スイカは置いておくものだと思っていた。いろいろなものがひっくり返された夏だった。合宿の反省をする。

◎行動

とにかく一番の基本、『歩行』ができていなかった。特に歩荷している時の歩行が不安定で何度も転んだり落ちそうになった。道が悪かろうが重かろうが疲れていようが、自分の体とガッシャーは確実にコントロールできるようにする。よく確認もせずに、源次郎の時にいらぬロープを2本持っていてしまい、登攀に少し支障がでたり他の人にも余計なものを背負わせてしまった。自分ごととして全然考えられてなかったので自分が知らない領域ほど理解できるように準備をする。わからないことはその場で聞く。主体性という言葉は主体的に考える。ハーネスのレッグループが振れていたのに気が付かずに登攀してしまった。事故につながりかねない初歩的かつ大きなミスなので今後絶対にないようにする。疲れているとコールを回し忘れてたり返事が小さかったり、声を出すことをサボってしまった。コールは周りの人にも影響することなので確実に回す。

新人合宿の時と同じような反省をしている

気がする。この現状にしっかり焦ってから、落ち着いて改善していきたい。

◎生活

自分の荷物がテントの中でまとまっていなくて他の人の空間にはみ出してしまっていた。レーションなど一つにまとめられるようにする。プレ火の日にポケットに軍手がないことがあった。どんなに疲れていても次の日のことを考えて生活する。天気図を素早く書くことができなかった。いつも時間がかかりすぎてタイムオーバーで最後の方が適当になってしまうので練習を重ねる。冬までには必ず書けるようにする。

◎感想

入山日から体調を崩してしまっていたり、なかなか思うように動けなかったこともあり悔しい思いもしたが、剣岳の山頂に立てたときはやっぱりものすごく嬉しかった。そしてアルパイン、楽しかった。こういう単純で、捻りも遠慮も忖度もない感情に支えられているのだと思った。登山をしている意味とかよく判らないけど、嬉しい楽しい大好きを大事にしたい。

会1 日比

生活

テントの中で自分の荷物は自分のスペースに収められていたが、どこに何を置いたのかを覚えておらずテント生活で必要なものを探すことが何度もあり、このとき自分以外のスペースも散らかしてしまったので今後は最低でもテント内で使うものはどこに何があるのか把握するようにします。また、チョークバッグを防水してなかったせいでプラチパスから水が漏れた時にチョークが濡れてしまい使い物にならなくなって

しまいました。今後は濡れた時に使い物にならなくなってしまうものは二重防水するようにします。

行動

3日目に剣沢設計を通過するときのアイゼンの装着と脱着に余計な時間がかかってしまった。事前にアイゼンの付け方を教わったのにも関わらず時間がかかってしまいました、これは完全に練習不足なので冬までに素早くアイゼンの脱ぎ履きができるように練習します。

自分は登るペースが下るペースよりあまりに遅く、隊のペースを乱してしまうことがありました。これは自分の体力不足が原因なので冬までに直すようにします。

登攀

懸垂下降の時に他の人はロープをほぐしていたのに自分だけ何もしていませんでした。今考えれば上級生と変わってロープをほぐすべきでした。今後はその時に自分がすべきことをよく考えて実践していこうと思います。また、懸垂下降に使ったロープを引き抜くときにロープがスタックしそうな場所なのに、落石を起こさないようにゆっくりと引きすぎてロープをひっかけてしまいそうになりました。このミスは岩の状態などを考えずにいつものように引き抜いてしまったために起こったことでした。アルパインクライミングでは毎回状況が違うのでその場その場で最適な判断ができるように努力し、わからなかったら上級生に聞くようにします。

今回の合宿でのアルパインは入会したころからずっと楽しみにしていたこともあってとても楽しいものでした。しかし、自分に足りないものが多すぎるということも感じ

た。冬に向けて足りないものを埋められるように努力していきます。

会1 小嶋

この度の合宿において最も反省すべき点は、多くの落石を生じさせたことである。山での初歩ではありながら重要なスキルである歩行法をこの時期に及んでも会得していないことは致命的である。これに関してはもちろん落とさぬよう意識をしてはいるのだが、それでも防ぐことはできなかった。地面をよく見るだの気を付けるだのといった、その場しのぎの手段のみで毎度解決を図るのではなく、そういった意識を突き詰めた先にある確固たる技術の習得を目指していきたい。

終了後の全体の反省会では、各人が主体性を持つことが強調されていた。指摘されてみれば各々の状況は各自が最も知っているわけで、積極的な自己の開示などは確かに重要だと思える。ここにおいて、主体性と身勝手との峻別が肝要であることは言うまでもない。ただどちらにせよ私は、主体性は協調性との両立が不可欠なのではないかと考える。その思考は、私が先頭を任された際に後方と距離が開いてしまうということがあったことに起因する。これは後列を顧みない、換言すれば協調性の欠落を示す出来事であろう。山行では身勝手な行為を一切絶ち、なおかつすべてを他人に任せて黙々と随伴するようなことは避けなければならない。

会1 金子

この夏合宿を通して私は、4月の新人合宿からいくつかの山行を経てきたにもかかわらず、たいして自分の成長がないと感じ

た。山に入る人間としてまだまだ未熟であると思う。

最初に、私はこの合宿でとても危険なミスをお犯した。両側切り立って幅が非常に狭くなっている尾根上で浮石を踏み抜いて落としてしまった。幸い下に人はおらず、私自身も落ちていないので良かったが、本当に死に直結する行為だったと思う。テストは徹底する。ほかにも足元ばかり見て、顔を上げたら急に石や木がありとっさにつかんで登るといったことが多々あった。十分なテストをするためにも常に周りを見ておく。加えて、課題であるのは歩行技術だ。私は同期と比べてもスリップが多いように感じる。大股かつ後ろに重心がある状態で斜面を下るのがよくないのだろう。歩幅を狭くして斜面と垂直の向きに体重をかけるようにする。また、明らかに危険なところよりもなんでもないと滑ることのほうが多かった。行動終了まで集中を切らさないよう努力する。また源次郎尾根登攀の際、持っていたロープやガチャ類をデポせず余分なものまで持っていく、自分だけでなく後でそれらを持ってくれたほかのメンバーの負担になった。入山前に源次郎尾根がどんな場所か調べていたら装備が多すぎると気づけたはずである。しかし実際は地形図を見ただけで、全体像すら把握しないまま上級生についていけばいいだろうという気持ちで登り始めた。これはリーダー任せのパーティーであり非常に危険だったと思う。下調べをしたり、先頭でなくても登山道からそれていないか確認したりともしっかりと山行に主体性を持って取り組む。次

に生活での反省である。一つ目は雨蓋装備一式をなくしたことだ。新人合宿でも物をなくすことがあったが、それと同じ場所で見つかった。これでは進歩がないといわれても仕方がないと思う。常に整理整頓を心がけ、物が見当たらないときには過去に紛れていた場所から探すなど頭を使うようにする。

二つ目は、考えるという行為が生活全般で足りなかったことだ。例えばテントの端にいるにもかかわらず鍋を持ち、ほかの人と腕が交差して逆に邪魔になることがあった。それならばテントの端には団装があるのだから、それらの準備や片づけをするなどしたほうが効率的だったと思う。先を読んだ行動をするよう心掛ける。以上のように、今回の夏合宿では反省すべきことが多くあった。しかし冬山ではよりシビアな意識と行動が求められる。これから冬に向けて体力、生活力ともに高めていきたい。最後に、この合宿に様々な面で協力していただいたOBの方々、合宿の諸準備、会計、現地での指導など多くの労力と時間をかけて私たちを山に連れて行ってくれた上級生には心から感謝申し上げる。

会1 亀井

行動

今回の夏合宿では、落石や石の上を滑るなどの歩行技術が全くできていなかった。特に、疲れてきた時など前の人についていくことだけを考えてしまって、石を確認しなかったり、適当な歩きをしてしまうことが多かった。そこがいちばんの反省ポイントだと思う。また、1つ1つの行動の遅さも

挙げられる。とくに、アイゼンの着脱のさい、色々な行動が遅くなった。ヘルメットを取ったり、行動手袋を外すなどなどとても時間をかけてしまい、隊全体の遅れをとってしまった。もし冬などに遅くなってしまうと、大変なことになってしまうため、下界のあいだ、色々な行動を見直したい。

生活

生活では、一番に主体的に行動できなかったことが挙げられる。誰かが何かをするのを眺めてみていることや、ボケっと山の方を見ているなどがあった。体として行動しているのに、自分一人がこんなことをしてしまっていては、だらけてしまうし、不快な気持ちになって、隊として崩れてしまう。そこをきちんと治して、自分で考えられるようになる。また、テント内での行動が挙げられる。ドーム天の真ん中に自分はいたけれど、大きく範囲を使い過ぎてしまい、周りに迷惑をかけてしまった。これらは、日常生活でも直すことができるため、しっかり反省していく。

会1 吉田

夏合宿 反省

夏合宿では自分の意識や技術の未熟さを痛感した。

まずは、生活である。春から夏にかけて天気図に盛り込まれる情報が多くなったことにより、細部まで等圧線が引けていない部分が多くあった。しっかりと予報が立てられるように、下界でしっかりと練習する。また、テントの中で効率のいい動きができるように、物の置き場所や鍋持ちの位置など、工夫しなければならない。朝ラーの注

ぎ分けでラーメンをこぼしてしまった。冬であれば致命的なミスにつながるのを気をつけなければならない。そして全体的に記録が取れていなかった。取り付きの開始時間や最終日の記録はとれていなかった。普段の山行で習慣になっていなかったことが原因である。スマホやノートに記録をするのを習慣づけないといけない。

次に、行動である。一番大きなミスは登攀日にセルフをとる時に安環を閉め忘れたことだ。安環を閉めることは一番大事だと「わかっていたはず」なのに閉め忘れた。日常の岩トレから絶対に閉める。アイゼンの着脱にも時間がかかった。冬に向け、無駄な時間をなくせるように下界で練習する。また、剣沢から真砂沢に下る時や真砂沢から黒部ダムに下る際、ガッシャーに振られて歩行がおぼつかない場面がたくさんあった。最終日には上級生に団体装備を持っていただいていた。歩行がおぼつかないと落石の原因にもつながる。冬に向けて重たい荷物になれる練習をしなければならないと思った。そして、下準備や下調べが足りなかった。どこをどのように登るのか、どこが危険なのかなど基本情報から頭に全く入っていなかった。これからは教えてもらうのではなく、自分から情報を取得し、万全の状態で行山に臨む。

最後に、初のアルパインは楽しさよりも怖さのほうが大きかった。反省会で、一度登ったところに次登る時は自分がリードできるように、というお話があった。クライミング力をあげなければならないと思った。自分のロープワークや生活の不慣れからくる行動の遅さや体力の欠如で隊に迷惑をかけた。行動・生活含め、隊についていける

ように下界で努力する。

引っ張ってくださったOBの方々、上級生本当にありがとうございました。

4月

上級生雪訓

日程：4/9

メンバー

会4 大島、坂井、河内

会2 薛L、黒木、椎屋

行動記録

7:35 大谷原

8:40 西沢出合

12:40 出発

13:30 大谷原

天気は晴れ、気温も高く理想な1日となった。西沢出合で上級生雪訓を行った際、土田さんも急遽見に来てもらいマンツーマンで指導を受けることができた。

徳本峠

日程：4/23

メンバー

会2 薛L、黒木、椎屋

行動記録

5:05 出発

6:45 二俣トンネル

12:00 徳本峠

13:30 上高地

新人合宿で通れるかどうか下見に行った。崩壊がひどく、来年に見送ることにした。

5月

GW山行

日程：5/3～7

メンバー

OB 塩谷さん

会2 薛L、黒木、椎屋

行動記録

1日目 晴れ

9:05 馬場島荘

9:50 赤谷尾根取り付き

14:30 1800m付近テン場

取り付きから藪漕ぎが始まった。しかし、踏み跡が明瞭だったので特に迷うことはなかった。テン場は1800m過ぎあたりからどこにでもはれた。

2日目 晴れ

4:00 起床

5:10 出発

7:10 赤谷山

8:30 ブナクラ峠

10:10 猫又山

12:10 釜谷山

13:40 毛勝山南峰テン場

赤谷山の登りでロープを出した。その後は文句なしの快適な稜線歩きとなった。ただこの時期の雪庇には注意したい。

3日目 晴れ

3:30 起床

4:35 出発

5:15 毛勝山

8:50 西谷ノ頭

11:30 ウドノ頭

13:00 滝倉山

15:05 1801m付近テン場

稜線に雪がついていないところも出てきており、ルーファイがとても重要になってくる。ロープをウドノ頭の手前で出した。

4日目 曇りのち雨

4:00起床

5:05 出発

8:15 駒ヶ岳

9:30 1900m付近テン場

午後から雨予報だったので早めにテントを張った。枝分かれの尾根だったので道迷いに注意したい。

5日目 雨

4:00 起床

5:00 出発

5:45 僧ヶ岳

6:40 成谷山

8:30 僧ヶ岳登山口

9:10 駐車場

ソクサクと出発し、早いうちに駐車場に着いた。下山後の反省会で塩谷さんからアイゼンの歩行技術の拙さやルーファイの未熟さを指摘されたので直していきたい。また、後輩を山に連れていくときのポイントなども教わったので今後にかたしていきたい。

6月

燕～常念岳

日程：6/3～4

メンバー

会2 薛、黒木、椎屋L

会1 森、金子、吉田、林、木村、日比、
田中、小嶋、亀井

1日目 曇りのち晴れ

11:20 中房温泉

11:50 第1ベンチ

12:40 第2ベンチ

13:45 合戦小屋

15:00 燕山荘

15:35 燕岳

20:30 大天井岳

20:45 テン場

前日の大雨の影響で道路の通行止めとなっており、リミットを決め入山した。森の体調不良により燕岳から大幅ペースダウン。大天井あたりで日が暮れてしまったが、無事テント場に到着。

2日目 はれ

5:00 起床

6:05 出発

7:00 東大天井岳

7:40 横通岳

8:00 常念小屋

9:00 常念岳

12:40 一ノ沢

森も割と回復したらしく良いペースで歩くことができた。両日共に綺麗に晴れたため展望には事欠かなかった。初修としてよいものになったのではないだろうか。

双六～三俣蓮華岳

日程：6/10～11

メンバー

会2 薛L、黒木、椎屋

1日目 曇り

6:30 入山

7:30 ワサビ平小屋

10:30 鏡台小屋

13:40 双六小屋

雪が多く残っており、この時期にまだ双六方面の山は一年生にとって怖いと感じるような山なのではないかと感じた。

2日目 雨

3:30 起床

4:40 出発

5:30 弓折岳

6:20 鏡平小屋

8:40 ワサビ平小屋

9:40 駐車場

朝から雨だったため、三俣までのピストンをカットし下山。雨と雪渓というダブルパンチで会1はずってんころりん。本当に気をつけてほしい。

7月

焼岳

日程：7/2

メンバー

椎屋(2)L、小嶋(1)、金子(1)、日比(1)

行動記録

6:20 坂巻温泉発

7:20 中の湯

7:55 新中の湯登山口
9:40 焼岳山頂
13:05 新中の湯登山口
13:10 中の湯温泉
14:10 坂巻温泉着

元々は焼岳から西穂高、小梨を經由し霞沢岳へ抜ける予定だったが悪天により後半をカット。ほぼ観光となってしまったが、骨休めの良い機会となった。

白根三山

日程：7/1～2

メンバー

黒木(2)、林(1)、吉田(1)

行動記録

1日目 雨

6:40 広河原
8:55 白根御池小屋

2日目 晴れ

2:30 起床
3:30 発
5:30 肩の小屋
6:10 北岳
7:15 北岳山荘
7:55 中白根山
8:45 間ノ岳
9:35 中白根山
9:50 北岳山荘
11:10 八本歯のコル
12:25 ニノ俣
12:50 白根御池小屋
13:55 広河原



1 日目は大雨で風も強かったので稜線に出る前で泊まった。前日からの雨の影響で階段などが滑りやすくなっていた。

2 日目は晴れたので、早めに出て間ノ岳まで行き、そこで引き返した。

中央アルプス全山

日程：7/15～7/17

メンバー

椎屋(2)L、金子(1)、木村(1)、田中(1)、日比(1)、林(1)

行動記録

1日目

5:30 コガラ登山口
9:40 茶白山
10:35 西駒山荘
12:15 頂上山頂
12:25 きそこま
13:05 宝剣山荘

茶白山取りつきでの渡渉が非常に悪い。雨の影響が無くとも膝下程度までは濡れる覚悟は必要だと思われる。かけてある丸太はいつ崩壊してもおかしくない。会1は強風と雨によりテンションこそ低いもののそれなりの余裕があった。

2日目

3:00 起床

5:00 発

6:15 宝剣岳

9:30 熊沢岳

12:15 空木岳

13:30 避難小屋

朝から暴風雨と火器トラブル。火器は何か修繕し予定より1時間遅れでの出発。最初の宝剣は少しばかり危険だったがその後は快適な縦走。空木岳下の避難小屋が既に満員であったため予定を変更し近くにテント泊。すぐ横の沢でリフレッシュもできたため全員ほぼ万全の体調であった。

3日目

2:00 起床

3:05 出発

4:15 空木岳

5:50 南駒ヶ岳

8:00 越百山

8:50 越百山荘

13:15 伊那川ダム

空木岳まで非常に良いペースで登る事ができたため山頂で日の出を拝んでの行動再開。越百山からダムまでが長く疲弊したが、それまでは全員快調であった。

雲の平周回

日程：7/15～17

メンバー

薛(2)L、森(1)、吉田(1)、小嶋(1)

行動記録

1日目 曇り

7:20 出発

10:30 太郎平小屋

11:30 薬師小屋

13:00 薬師岳

15:00 テン場

折立ヒュッテからの登山道から大規模の整備されており登りやすかった。薬師岳のピストンはガスの中いペースで登れたのではないかと思う。

2日目 曇り

3:00 起床

4:10 出発

5:40 薬師沢小屋

8:20 雲の平山荘

10:00 祖父岳

11:00 ワリモ岳

11:30 鷲羽岳

12:35 三俣山荘

13:40 三俣蓮華岳

14:50 黒部五郎小屋

雲の平への登りはぬめっているので注意が必要。鷲羽岳登りで吉田が手を負傷した。軽い怪我だったが岩稜帯では行動手をつけるべきだと感じた。

3日目 晴れ

3:00 起床

4:25 出発

6:35 黒部五郎岳

8:40 赤木岳

9:25 北の俣岳

10:30 太郎山

10:35 太郎平小屋

13:00 下山

黒部五郎岳へカールから行かずに稜線を通るルートで行った。若干切り立っている箇所もあるが歩きやすく景色は最高だった。

八ヶ岳全山

日程：7/22~7/23

メンバー

椎屋(2)L、金子(1)、小嶋(1)、田中(1)、日比(1)

行動記録

1日目

5:45 発

6:45 蓼科山荘

7:15 蓼科山

7:40 蓼科山荘

8:30 大河原山荘

9:05 双子山

9:15 大河原峠

9:30 双子池ヒュッテ

10:15 天狗の露路

10:55 大岳

11:50 北横岳

12:50 縞枯山荘

13:10 雨池山

13:50 縞枯山

14:25 茶白山

15:05 麦草ヒュッテ

16:05 丸山

16:20 高見石小屋

17:35 中山

17:55 黒百合ヒュッテ

蓼科山あたりまでは皆元気だったがその後の展望もなく単調な登山道と長時間行動の合わせ技により意気消沈。なんとかテント場にたどり着く。

2日目

2:00 起床

3:20 出発

4:10 東天狗岳

4:50 根石岳山荘

5:10 ヒュッテ夏沢

6:00 硫黄岳

7:20 横岳奥の院

8:30 赤岳天望荘

9:15 赤岳・赤岳頂上山荘

10:40 キレット小屋

12:15 権現岳

13:10 青年小屋

13:45 編笠山

15:50 富士見高原駐車場

前日の疲労が抜けきらないままメインディッシュへ。赤岳まではそれなりに快調だったが、赤岳の悪い下りに始まり権現周辺のアップダウンにより全員撃沈。青年小屋の方の好意でいただいたおにぎりで復活しなんとか完遂。無理をしないなら3日間で行くのがベターか。

八ヶ岳全山

日程：7月22日~23日

メンバー

黒木(2)L、木村(1)、森(1)、吉田(1)

行動記録

1日目 曇り

5:40 富士見高原
8:40 編笠山
9:05 青年小屋
10:35 権現岳
12:15 キレット小屋
14:15 赤岳
15:00 赤岳展望山荘
16:15 横岳
17:25 硫黄岳
17:50 赤岩の頭
18:50 オーレン小屋

2日目 曇り

3:15 起床
4:05 発
4:30 夏沢峠
5:20 夏沢峠発
5:40 オーレン小屋
7:45 オーレン小屋発
8:25 夏沢鉱泉
9:00 桜平駐車場(中)



1日目は八ヶ岳の南の山を歩いた。行程の最後の硫黄岳からの下りで1年生が足を痛めたため、2日目はエスケープすることにした。2日目は、計画では北から来る隊と車を交換して帰る予定だったので、朝に夏沢峠まで上がって別隊と鍵を交換した。そ

の後テン場でスイカを食べて下りた。

南アルプス全山縦走

日程：8/6~8/12

メンバー

椎屋(2)L、木村(1)、田中(1)、日比(1)

1日目

6:40 尾白キャンプ場発

6:50 駒ヶ岳神社

13:40 七条小屋

全装で黒戸尾根。これ以上行くのは難しい。

2日目

4:30 起床

6:40 発

8:05 甲斐駒ヶ岳

9:55 六合目

11:40 仙水小屋

12:20 長衛小屋

黒戸尾根を登り切りほぼ下界まで下りてくる。沢もありまだ皆大丈夫そうな様子。

3日目

2:00 起床

3:20 発

5:00 大滝頭

6:00 小仙丈ヶ岳

7:15 仙丈ヶ岳

8:10 大仙丈ヶ岳

10:05 伊那新倉

10:15 高望池

11:50 横川

12:10 野呂川越

13:10 両俣小屋

朝から天気が悪かったが、仙丈ヶ岳付近で晴れる。樹林帯の快適だが面白みのない登山道をひたすら歩く。

4 日目

3:00 起床

4:20 発

6:10 野呂川越

9:45 三峰岳

10:50 井川越

11:10 熊ノ平小屋

悪天候もあり短めの行程。これまでなかなかハードであったので一休み

5 日目

3 : 00 起床

4:20 発

4:50 安倍荒倉岳

6:00 新蛇抜山直下

7:10 北荒川岳

9:30 塩見岳

10:55 塩見小屋

13:00 本谷山

14:40 三伏峠小屋

塩見岳以外はゆるい登山道。然し塩見岳の登り始めて日比に異変が生じ始める。恐らく疲労が原因だが、ペースが上がらない。適宜装備をばらしつつ気力で何とか三伏峠小屋へ。本谷山あたりからかなり危なかったがたどり着けて良かった。

6 日目

3:00 起床

9:00 発

10:30 烏帽子岳

12:30 三伏峠小屋

日比の体調を鑑みてレスト日にする予定だったが、本人が動けそうとのことなので試みに動いてみたが完全回復ではなかった。荷物を降ろし直近のピークまで空身で歩き、テント場へ帰った。

7 日目

4:00 起床

5:35 発

7:45 烏倉登山口着

体調回復の見込みと予想される悪天候を鑑みて敗退。結果的に全山ではなく半山となったが縦走の厳しさを体験できる良い機会となっただろう。上級生としても重装備を考慮した計画の重要性を痛感させられた。

夏縦走

日程 : 8/6~12

メンバー

薛(2)L、金子(1)、森(1)、小嶋(1)

記録

1日目 曇り時々晴れ

6:45 出発

8:45 第三ベンチ

9:35 富士見ベンチ

10:10 合戦小屋

11:50 燕山荘

15:55 大天荘

森の体調が悪い。重さに苦戦していた。

2日目 曇り
3:00 起床
4:30 出発
5:05 大天井ヒュッテ
7:15 ヒュッテ西岳
10:50 ヒュッテ大槍
11:45 槍ヶ岳山荘

この日はレスト日。

3日目 曇り
3:00 起床
4:30 槍ヶ岳
6:20 槍ヶ岳山荘
9:35 縦沢岳
10:00 双六小屋
11:20 双六岳
12:50 三俣蓮華岳
13:30 三俣山荘

西鎌尾根は鎖場が狭い、大きい荷物は注意が必要。

4日目 晴れのち曇り
4:30 起床
5:45 出発
6:45 鷲羽岳
8:20 水晶小屋
8:45 水晶岳
9:00 水晶小屋
11:30 ビバーク
12:50 スタート
13:00 野口五郎岳
13:10 野口五郎小屋
15:30 烏帽子小屋

とんでもない雨に降られた。ビバークはテントを野口五郎の手前で張った。20分ほどしたら止んだ。

5日目
2:00 起床
3:05 出発
5:00 南沢岳
7:30 不動岳
11:15 船窪岳
12:20 船窪小屋

この日はレスト日の予定だったが思う以上に高低差と緊張感を要され、一番疲弊した。

6日目
3:00 起床
4:10 出発
4:30 七倉岳
6:15 北葛岳
8:20 蓮華岳
9:10 針ノ木小屋
10:10 針ノ木岳
11:00 スバリ岳
12:40 赤沢岳
12:40 大休止
14:20 鳴沢岳
15:00 熊に遭遇
17:00 岩小屋沢岳
19:00 テン場

熊に遭遇。距離は20mほど、去るまで1時間ほど待機したがその場に居座っているため歌いながら通過した。森が歩くたびにうめき声をあげている。ペースダウン。

7日目

2:30 起床

3:30 出発

3:10 種池山荘

5:30 種池山荘

9:00 登山口

9:20 扇沢

一年生の様子を見て、レスト日として種池山荘のテント場に泊まろうとしたところ予約が必要とのこと。冷池山荘も予約でいっぱい。事情を説明したが聞き入ってもらえず、あえなく下山。計画力が不足していた。

夏縦走（北ア黒木隊）

日程：8月8日～14日

メンバー

黒木(2)、亀井(1)、林(1)、吉田(1)

行動記録

8/8(火) 晴れのち雨

5:35 槍見温泉

19:55 ビバーク地

1年生のガッシャーは平均30kgくらいで入山。初めの30分はしっかりとした登山道があったが、その後は整備されていなかった。半日くらい藪漕ぎをした。

8/9(水) 曇り

5:00 起床

6:45 発

6:55 クリヤノ頭

8:00 雷鳥岩

12:35 笠ヶ岳

13:15 笠ヶ岳山荘

この日も登山道に草がはみ出ている状態のところを進んだ。笠ヶ岳山頂は真っ白でほとんど景色は見えなかった。笠ヶ岳から先の登山道はしっかりと整備されていた。



8/10(木) 快晴

3:00 起床

5:05 発

5:30 抜戸岩

6:35 秩父岩

7:10 秩父平

8:10 大ノマ岳

9:15 弓折岳

10:35 双六小屋

12:20 双六岳

14:05 三俣蓮華岳

14:50 三俣山荘

小さいアップダウンが思った以上に体に来た。双六小屋でOBの方にジュースを奢ってもらい1年生も復活した。



8/11(金) 晴れ

3:00 起床

4:00 発

5:45 鷲羽岳

6:35 ワリモ岳

7:05 祖父岳分岐

7:40 水晶小屋

8:45 水晶岳

12:40 赤牛岳

18:10 奥黒部ヒュッテ

朝一から鷲羽岳の急登を登った。山の日だということもあり、水晶岳は混んでいた。大きいガッシャーでの読売新道の下りは、予想以上に時間がかかった。



8/12(土) 快晴

3:00 起床

4:10 発

7:00 平ノ渡場 10:20 発

10:35 平ノ小屋

12:45 刈安峠 14:40 発

15:15 ビバーク地

前日は早く寝ることができなかったので、3時起床にしたら、朝一の船に間に合わなかった。船乗り場で3時間くらい待った。船で渡ってからは、日が当たっていて暑かった。急登を登って峠に出る少し手前で1年生がダウンしてしまった。少し様子を見たが回復しなかったため、ビバークした。

8/13(日) 快晴

3:00 起床

7:20 発

9:10 五色ヶ原テン場

9:20 五色ヶ原山荘 9:45 発

9:50 五色ヶ原テン場

10:50 ビバーク地

少し動いてみたが、1年生の体調が優れなかったため、ビバーク地に戻った。水が足りなかったため、山荘に分けてもらいに行った。

8/14(月) 雨のち曇り

3:00 起床

4:15 発

4:30 刈安峠

6:10 平ノ小屋

10:55 ロッジくろよん

11:40 黒部ダム駅

朝になっても体調が回復しないので、台風が接近していることもあり、エスケープを使う判断をした。ダム沿い歩きが長かった。



サマテン

メンバー(山行参加者のみ記載)

黒木あおい(会2)

椎屋晴賀(会2)L

薛信之介(会2)

木村俊太郎(会1)

田中佑之介(会1)

林みつば(会1)

日比光彦(会1)

森琢真(会1)

吉田沙瑛(会1)

竹田昴(OB)

師田信人(OB)

行動記録

8/30

ジャンダルム隊(椎屋、木村、林、日比、森、
(途中敗退:黒木、吉田))

4:30 起床

5:05 出発

7:10 岳沢小屋

9:00 天狗沢

9:30 天狗の科尔

11:00 ジャンダルム

12:20 馬の背

12:35 奥穂高岳

13:50 紀美子平

15:30 岳沢小屋

16:50 小梨平

メンバーの一部の途中敗退や、ルート難度、会2に対する会1の数といったイレギュラー等はあったが問題なく完遂。ジャンダルムで懸垂する余裕があるほどだった。しかし敗退要因に序盤のオーバーペースが関係している可能性が高いのでその辺りは要反省である。また、完遂は結果論であるためパーティーメンバーに対するルート選択は今一度慎重に吟味すべきだとも感じた。

8/31

奥又白池隊(薛、吉田)

5:00 起床

5:50 出発

6:20 明神館

6:50 徳沢

7:15 奥又白登山口

9:40 奥又白池

12:00 奥又白登山口

13:00 明神館

13:30 小梨平キャンプ場

実働メンバーの体調等を考慮した軽めの行程。穂高登攀、奥又ベースの復活に向けた良い偵察となった。

穂高縦走隊(黒木、竹田)

5:00 起床

5:50 出発
7:45 岳沢小屋
10:25 前穂高岳
11:45 奥穂高岳
12:10 穂高岳山荘
14:15 北穂高岳
15:30 涸沢
16:50 横尾
17:40 徳沢
18:30 小梨平

OBの竹田さんに手伝って頂いた山行。最終到達目標点を槍ヶ岳に置き、可能な限り長く縦走するというコンセプト。良いペースではあったが時間の都合上穂高縦走で終了となった。次の日に登攀があるという事を考慮しなければもう少し進めたのかもしれない。

9/1
一ノ俣遡上隊(田中、日比、竹田)
3:00 起床
3:30 出発
5:20 横尾
6:50 一ノ俣入渓
7:30 二段の滝
9:00 七段の滝
11:05 下山開始
12:00 二段の滝
12:50 一ノ俣脱渓
13:40 横尾
17:00 小梨平

OBの竹田さんに会1を連れて行って頂いた山行。純粋な沢登りというよりかは沢横の旧道をメインに遡上する予定のルートだ

ったのだが、人通りの少ない旧道という事でそもそも発見が困難だった模様。下山時の懸垂下降中に偶然発見はできたとのこと。このルートを使いたいのであればルートをよく知っている人が一人は欲しい所である。結果的に稜線まで突き上げる事はできなかったが会1にとってはよい刺激と経験になっただろう。

北穂高岳隊(薛、林、吉田)

3:30 起床
4:00 出発
6:00 横尾
8:00 涸沢
10:00 北穂高岳
12:30 穂高山荘
13:40 涸沢
15:00 横尾
17:00 小梨平キャンプ場

会2の経験値や技量を踏まえ登攀の予定を取りやめ縦走に変更した行程。登攀を予定していただけに会2の中にくすぶるものもあったようだが上手く切り替え対応してくれた。結果的に会1の体力錬成に繋がる良い山行となった。

明神岳東陵隊(黒木、椎屋、師田)

4:00 起床
4:30 出発
5:10 明神館
7:50 取りつき(ひょうたん池)
10:30 明神岳
13:40 A沢上部
14:00 懸垂開始
14:35 懸垂終了
16:00 奥又白池

18:20 明神館

19:00 小梨平

OBの師田さんの協力を得て実現した登攀。途中3ピッチほどロープを出したのだが、2ピッチ目に当たる垂壁部分は師田さん曰く崩壊により以前より難化しているとのこと。確かに辛く、高度感も相まってリードはある程度登攀に余裕が無いとかなり恐怖心を抱くように思う。明神頂上からの懸垂は山頂基部の崩壊により不可。A沢の懸垂点が消滅しており古びたハーケンを用いての下降となった。これも崩壊に起因するものらしい。A沢の悪さやひょうたん池までのルーフアイ難度、ロープセクションの難度や恐怖感、全体的に見受けられる崩壊を考慮するとおいそれと手を出せるルートではない。

9月

一年生縦走

日程：9/16～17

記録

1日目 晴れ

会1 田中、日比、金子、児嶋、亀井、森

記録

9:00 十勝岳温泉登山口

10:05～10:50 吉田の体調不良により停滞

11:05 上ホロ分岐

12:20 荷物デポ

12:40 富良野岳

12:55 荷物回収

14:30 三峰山

15:20 上富良野岳

15:50 上ホロカメットク山

16:20 テン場札幌にある木村の実家から、車で十勝岳温泉へ向かった。下山口である旭岳温泉に車を回した後、入山した。しかし程なくして吉田の体調が悪く、このまま山行を通すことが難しいということが判明した。そこで、木村と林が吉田に付き添って一時的に下山した後、エスケープとして設定していた白金温泉から再入山し、本隊に合流するという判断を下した。その後すぐ一時下山隊は十勝岳温泉へ下山した。残りのメンバーで構成された本隊は、特に問題もなく快適な登山道で富良野岳などを越えて上ホロ小屋に到着した。上ホロ小屋付近のテン場は既に埋まっていたため、上ホロカメットク山のトラバースルートの途中にあるテン場を利用した。テン場は圏外であったが、上ホロ小屋まで行けば電波が拾えたので、下界にいる一時下山隊と翌日の合流時刻などを決定したのち、就寝した。

2日目 晴れ

4:00 起床

6:30 テン場発

7:00 上富良野岳

8:05 上ホロ分岐

9:15 十勝岳温泉下山林、吉田、木村

9:00 十勝岳温泉登山口

10:05～11:00 吉田の体調不良により停滞

11:30 十勝岳温泉登山口夏縦走を完遂できた者がおらず、完走を目指して臨んだ一年縦走であったが、二日間で幕切れとなった。準備、判断、全てにおいて詰めが甘さが目立った。体調不良者がいる中で山行を強行したこと、山行責任者が本隊と別れてしまったこと、本当にミスが多かった。今となってはあの時こうすれば良かったと、思い返す

ことが多い。ひとまず、全員無事で下山できて良かった。一方で、上級生に連れて行ってもらっただけでは味わえなかった、気づきや反省点が各々あったであろう。そして、改めて山岳会としての山行とは何かを再認識することができた。

縦走でことごとく敗退し、課題も山積みだ。



尾白川本谷

日程：9/16～17

メンバー

竹田さん(OB)、薛(2)L、黒木(2)、椎屋(2)

記録

1日目

6:00 出発

7:35 入溪

8:10 噴水滝

8:20 黄蓮出合

18:00 2100m付近

2日目

3:05起床

4:10 出発

8:35 稜線

9:35 烏帽子岳

11:30 大岩山

14:35 日向山

15:15下山

沢登りは初めのメンバーが多く、釣りをしながらとても楽しい山行となった。高まきの踏み跡も明瞭で最初にいくならとても良いルートだと思う。

北アソロ縦走

日程：9/23～28

メンバー

黒木(2)L

行動記録

9/23(土) 雨

10:35 樺平

11:10 展望台

11:30 水平道入り口

12:50 志合谷

13:45 オリオ谷

15:05 阿曾原温泉

雪溪の影響で猿倉荘からの入山ができなかったため、計画の途中にあたる樺平から入山した。雨が降っていて、足場が滑るため水平道は慎重に進んだ。

9/24(日) 快晴

3:45 起床

4:45 発

5:50 仙人ダム
8:40 仙人温泉小屋跡
10:40 仙人池ヒュッテ
12:00 近藤岩 12:30 発
13:30 真砂沢ロッジ

仙人ダムから仙人池までの登りがキツかった。しかし、登りきると剣岳が綺麗に見えて元気が出た。夜は眠れないほど寒かった。



9/25(月) 曇り
5:00 起床
6:00 発
6:25 長次郎谷出合い
6:50 平蔵谷出合い
8:15 剣沢小屋
8:20 剣沢野営管理所
9:15 剣御前小舎
10:10 雷鳥沢キャンプ場
11:15 立山室堂山荘
12:45 龍王岳
14:10 獅子岳
14:50 ザラ峠
15:15 五色ヶ原キャンプ場

起きたときはこの日の行程は雷鳥沢までの予定だった。しかし、剣沢野営管理所で電波

を拾い、天気を調べると、思ったより天気が崩れるのが早そうだったので、五色ヶ原まで行くことにした。室堂は人がいっぱいいたが、龍王から先は人が減った。テン場は人が多かった。テン場の水も、2週間ほど前は出ていなかったが、出ていた。



9/26(火) 雨
2:20 起床
3:15 発
4:25 刈安峠
5:15 平の小屋
5:20 平の渡し場 6:00 船発
6:15 針ノ木側船乗り場
7:40 奥黒部ヒュッテ
13:05 赤牛岳
13:20 ビバーク地

雨が降り出す前に読売新道を登り切りたかったのだが、登り始め1時間で降り始めた。奥黒部ヒュッテの時点で三俣山荘まで行くのは厳しいと判断したため、水を多めに持った。歩荷のせいで、腰痛との戦いだった。登りきると風がとても強かったため、風下側にテントを張った。



9/27(水) 雨
沈殿

雨と風が強かったため沈殿した。

9/28(木) 雨
5:00 起床
5:50 発
5:55 赤牛岳
8:30 奥黒部ヒュッテ
10:00 針ノ木側船乗り場
10:35 平ノ渡し場船乗り場
13:10 ロッジくろよん
13:40 黒部ダム駅

急用により下山しなくてはいけなくなったため、黒部ダムに下山した。赤牛岳までの稜線歩きが、短い風が強くて呼吸が苦しかった。読売新道は前日からの雨で登山道に水が流れていた。黒部ダム沿い歩きは、雨が強くなって、滑りやすかった。



槍ヶ岳西陵

日程：9/29
メンバー
河内(OB)、薛(2)L
記録
2:20 新穂高
7:20 肩ノ小屋
8:00 取り付き点
12:15 槍ヶ岳
12:40 肩ノ小屋
17:10 新穂高

こうすけさんの誘いで西陵に行ってきた。小槍でアルペン踊りを踊り、いいペースで登攀することができた。岩は固く、修了点もしっかりハーケンが打たれていた。ATCは2度と落とさないように気をつけたい。